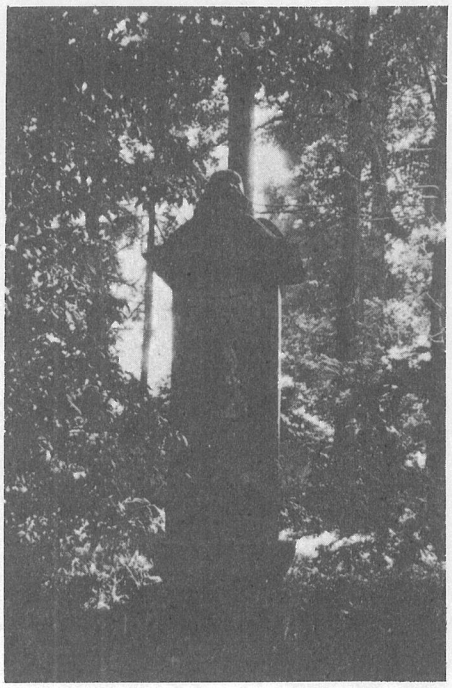
横芝の碑（その八十六）

道教の思想を伝えるか

中台大宮神社前の庚申塔



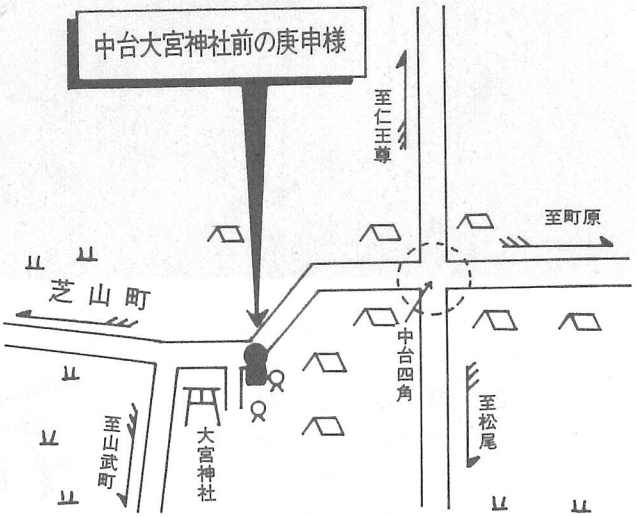
中台の四角は、左に曲ると松尾町十路。右に折れると芝山仁王様に通じ、更に一〇〇メートル程進むと左側は中台の大宮神社境内です。参道は県道に面し、その入口の大樹の下に一基の庚申様が建っています。建立された年代は享保十一年（一、七二六年）で、横芝町の庚申様の中では、古川の、元録、北清水、栗山の宝永、遠山の正徳、（一、七〇四年から一、七一六年まで）に比べますと少し遅いのですが、しかし、人の背丈を上廻る大きさと、これに刻まれている庚申像や、それに付属する図柄（この表現は不適当かも知れません）が多彩であることは、少くとも横芝町の庚申様の中では一番だと思います。

まず、庚申様の六肘の中、正面で合掌して居る筈の左手では、一匹の獣らしい動物を捕え、その下には鳩が嬉しそうに庚申像を見上げ、右側には一匹の鬼が殊勝に控えています。尚珍しいことに、庚申塔の天蓋形の上の頭が欠けています。そして、中国のそれと思われる服装をした人物が片膝を立てた姿で座っています。その下の天蓋形の正面には、これも昔の中国人らしい人物が租朶（そだ）を天秤に担った姿が刻まれているのです。

庚申の信仰について〝仏家と神道の二つがあり解釈も異るらしいこと〟また〝三層虫という虫が人体に住んでいて、庚申の夜半になると抜け出して興を起す、それを防ぐのが庚申待の行事で、これは中国の道教（どうきょう）から伝わっている〟とご紹介申し上げましたが、その道教について改めて広辞苑を調べて見ますと「道徳の教え。黄帝老子を教祖と仰ぐ多神的宗教、無為自然を旨とする老荘哲学の流れを汲み、是に陰陽五行説や神仙思想を加味、不老長生の術を求め、符呪祈禱を行うもの、後漢末の張道陵を開祖とし、仏教の教法を取入れ、次第に宗教の形を整え、中国の民間風俗に永く影響を及ぼす。」と説明しています。この庚申塔に刻まれている人物や図柄が、神社仏閣の回廊や欄間で見かける道徳的な故事を表現した彫刻に類似していること等からは道教の思想が強く汲みとれます。

また、地元の人々にこの庚申様のことを聞いて見ますと、「他の庚申様のように、肱（いぼ）とか耳の神という特別のご霊験の話は昔から聞いていない、諸願成就の神として崇め、神社参拝の折には、まず、庚申様にお参りしている、神社のおびしゃ当番の家で、神社と同じように、掃除やお供物もする。」ということでしたが、この話による風習には、神道上の庚申様としての信仰（立会の庚申様もそうでした）が伺われ、他の庚申様とは異った趣を感じるのです。

◎写真はその庚申様で、側面には奉敬礼庚申待成就所享保十一丙午歳十一月吉日、同行、と刻まれています。一見静かに見える庚申様の周辺は、絶間なく来襲する飛行爆音が頭上を脅し、取材の会話さえも途切れ勝でした。開発という文化？の波が押寄せる中で、じっと耐え忍ぶように建っている庚申様の前には、空港関連の開発用であろうか、ブルドーザー等の重量車の駐車場になっているようでした。「どうか誤って庚申様をこわしたりしないように。」と祈りながら取材を終えたのですが、今でもその杞憂であることを念じています。（取材に当り、地元の大勢の皆様からご協力頂きました。）

町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿

案内略図